



場を耕し、年輪をはぐくむ

コミュニティコーディネーターの実践

こえをきく

場を拓く、素材を拓く 園庭テラスの可能性

まちな保育園 小竹向原

まちな研究所の共創プロジェクト

FAMILY GREEN アトリエ

今と未来を考える

もう一度、つなぎなおす 一つひとつのいのちがたいせつにされる社会

影山知明さんのお話

場を耕し、年輪をはぐくむ コミュニティコーディネーターの実践

まちの保育園・こども園、まちの研究所が運営する各園・各施設には「コミュニティコーディネーター」が常駐しています。

こどもの興味・関心に寄り添いながら地域との共存関係を築き、保育者と共に環境を整え、こどもたちに多様な出会いや経験を持ってもらえるよう、置かれた専門職です。

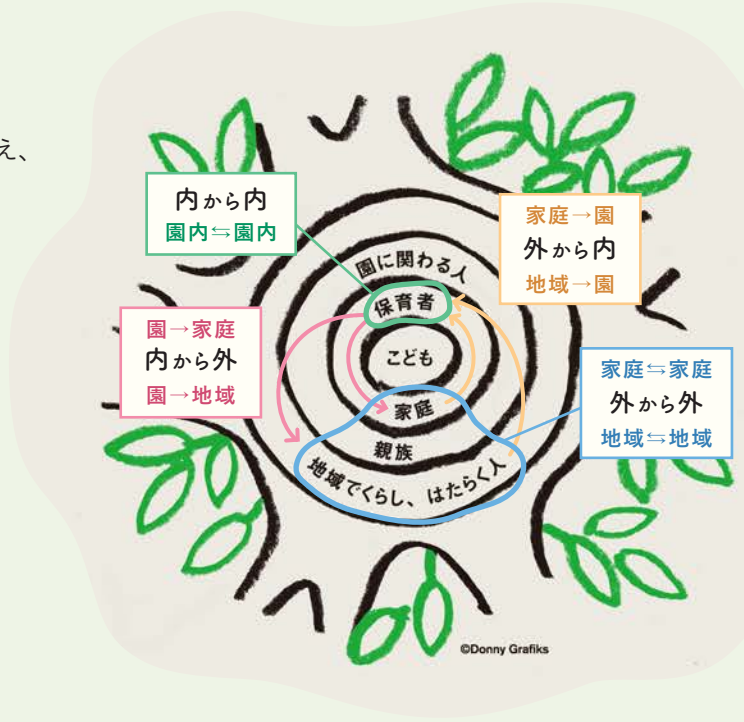
コミュニティコーディネーター、通称「CC」の業務は多岐に渡ります。

園内外のコミュニケーションの潤滑油的な役割だったり、保育の現場で必要なものを地域から見つけてきたり、挙げていくときりがありませんが、発注や経理などの事務作業も行います。

こども、保育者、保護者、地域の人。たくさんの人と接点を持つこの仕事は、異業種からの転職組が多いこともひとつの特徴です。

今回は、そんな各施設のCCたちが月に一度集まって開催する「CC会」にお邪魔して、近年どんな取り組みをしているか、話を聞いてきました。

誌面の都合上、ほんの一部にはなってしまいますが、ご紹介をさせていただきます。



「コミュニティの年輪論と4象限」を図で表したものの一部

まちの保育園 小竹向原



10年前から、小竹町のまちなかでほぼ毎年開催している小さなお祭り「こたけあそび」。

町会のみなさんをはじめ、地域の神社や幼稚園、さまざまな施設やお店、ボランティアの方々、そして園の保護者のみなさんにも手伝っていただきながら、準備や運営に取り組んでいます。

まちの活性化はもちろん、地域のことを知りながら、こどもから大人まで多世代が交流できることを目指しているこの催し。ひとりひとりができることを持ち寄って作り上げることで、地域への愛着が生まれ、ここで育まれた関係性、信頼関係は、防災や防犯にもきつと寄与すると信じて、これからも続けていけたらと思います。

まちのこども園 代々木公園



日頃からつながりの深い、地域のお米屋さん「小池精米店」。

園の給食に使うお米を卸してくださっていて、子どもたちがお散歩中に訪れたり、幼児クラスがバケツ稲(バケツの中でお米を育てる栽培方法)を育てる際の種籾をお譲りいただいたりなど、さまざまな形で交流が続いています。最近では、小池精米店を通じて鳥取県の農家の方と繋がり、鳥取からいただいた種籾でバケツ稲を育てています。年に数回、鳥取の農家さんと園の子どもたちがzoomで交流する機会を設け、カメラ越しに現地の田んぼの様子を見せてもらったり、農機具の仕組みや使い方を説明してもらったりして、はじめてそれらを目にする子どもたちは目を輝かせ、感嘆の声を上げています。反対にこちらのバケツ稲の様子も見てもらい、アドバイスをいただく場面もあり、お米にまつわる興味関心がさらに深められる機会となっています。この他、園は代々木公園内にありますので、代々木公園のサービスセンターや明治神宮のみなさんとも連携させていただいています。

まちの保育園 吉祥寺



吉祥寺園はもともと、屋上にある畑を使って野菜くずから土作りをして野菜を育てたり、海の探究を通じて海洋プラスチックの問題に目を向けるなど、「循環」がアトリエや子どもたちの活動についてのキーワードの一つとなっています。

ある日、園近くの大学の馬術部が、堆肥として活用できる馬糞を地域の希望者に配る活動をされていることを発見。CCがコンタクトを取り、園の子どもたちと一緒に大学を訪問しました。堆肥をお譲りいただくだけでなく、馬やコンポストの様子を実際に見せていただき、部員の方からお話を伺うこともできました。園に戻った子どもたちは、見てきた様子を思い思いの絵で表現していて、心に残る実体験のひとつになったのだと思います。こうした実体験の積み重ねを通して、子どもたちの豊かな育ちを、地域にある資源や人とのつながりを活かしながら育んでいけたらと思っています。

まちのこども園 代々木上原



CCである私が学生時代にサッカーをやっていたので、その経験を園内で保護者の方に話していたら、自然と保護者のみなさんとのフットサルの会を週末に開催できるように。スポーツをきっかけにすると、お父さんたちがたくさん集まってくれることに驚きました。会を重ねるうちに、園に親しみを感じていただけたのか、フットサルの会の後には園でお父さん同士がいつもより楽しそうに話しているように見えたり、家族ぐるみでの交流のきっかけにもなっているようです。私自身も送迎の際にお父さんたちと会話する機会が増えました。全クラスに向けて告知しているので、子どもの学年を超えて親子が仲良くなれますし、有志で保育者も参加するので、お互いの人となりがわかって(子育ての相談なども)少しは話しやすくなっているのでは！？と感じます。

最近では園の枠を超え、他園(まちのこども園 代々木公園)の職員も参加してくれるので、保育者同士の交流にも繋がっています。

大人たちのプレーを見ている子どもたちも楽しそうで、影響されてサッカーに興味を持っている子もいるみたいです。

まちの保育園 六本木



子ども・保護者・職員で行く一泊二日のお泊まり会「森へ行こう」。

開園時からの恒例行事で、参加は有志ですが、ほとんどの方が参加してくださっています。

1日目は、現地のレンジャーさんと全員で森を散策し、夜にはキャンプファイヤーを。もともと、自然が少ない都会の園だから・・・という想いでスタートした催しで、親子がともに自然に親しみ、東京に戻っても興味や活動の続きが繋がっていくという良さもありますが、一緒に長い時間を過ごすので、保護者にとっては子どもへの関わりや声がけのヒントを他の家庭や保育者から発見できるという声も。

さらに2日目、子どもたちは保護者と離れて保育者と一緒に森へ向かうのですが、その間は保護者チームにCCが加わるので、そこで自然と会話が生まれ、普段はなかなか聞けないような園への思いや保護者の希望をお話しただけたり。日頃からもっとコミュニケーションの機会を作ればよいのようですが、こういった環境下で、CCという橋渡しの立場であるからこそ本音を引き出すことができるのかな、とも感じています。

こしぶや (渋谷区神南ネウボラ子育て支援センター)



CCは、利用者と地域・行政をつなぐハブとして、ひろばを利用する子育て家庭の声やアンケート、日々のイベントなどから得た要望を渋谷区に共有したり、それを環境整備や企画づくりに活かしています。利用者から有志を募って一年間活動するボランティアチーム「tomocoくらぶ」を運営し、こしぶやの活動に直接関わっていただくことも。

また、渋谷区が「都市部における地域コミュニティの構築・維持・活性化」を目的として毎年開催しているイベント「おとなりサンデー」にて、近隣の方をこしぶやにお招きし、昔遊びや盆踊り、アートを通じた交流イベントなど、多世代が交わるきっかけづくりを行っています。

今年8月に1か月間開催した「coの夏をたのしもう」では、年々酷暑になるなか、また幼稚園・小学校の夏休み期間でもあるため、毎日訪れても楽しんでもらえたり、新規の方にも気軽に参加いただけるような、染め物や虫の探究、体操、親子の写真撮影会などさまざまな企画を実施しました。

日々、利用者と直接関わる支援スタッフが子育て家庭のニーズをとらえ、CCは職員の「やってみたい!」を形にするため、企画や構成、渋谷区との調整・連携、空間デザインや広報など多方面からサポート。また、利用者のご家庭に呼びかけ、告知ビジュアルのモデルとしてご参加いただくなど、利用者のみなさんとも「いっしょにつくる」イベントを形にできました。

コミュニティコーディネーター講座、今年度も開催決定!

まちの保育園・こども園では、東京大学大学院教育学研究科と2018年に協定を締結しており、コミュニティコーディネーターについても、毎年シンポジウムやセミナーを共同開催しています。今年度は2026年3月27日(金)に「コミュニティコーディネーター講座」を開催予定です。詳細は追ってまちの保育園・こども園、まちの研究所ホームページにてお知らせいたします。おたのしみに!

まちの保育園 南青山



2024年に開園したばかりの園ですが、地域の町会長さんには本当によくしていただいていた、コロナの影響などでしばらく活用されていなかった「こども神輿」と山車をお借りすることができました。青山熊野神社の禰宜さんにもご協力いただきながら、園が入居するポーラ青山ビルディングの前にある公開空地で山車を引きました。2・3歳児とその担任で山車の紐を引き、その後を1・2歳児が歩きとバギーでついていく形。園と同ビル内のNSIT(まちの研究所が運営するニューロダイバーシティのスクール)の子どもたちも飛び入り参加。ビルに入居するテナントの方々にも事前に周知し、多くの大人たちに見守っていただきました。夕方には近隣にある区の複合施設で「昔遊びの縁日」を開催。園の職員と、ポーラビル管理者の方々、さらに港区立障害者グループホームの職員さんと協働で、わなげ、ヨーヨーすくい、めんこ・けん玉などの各コーナーを担当。園の親子や地域のご家族と楽しみました。

また、11/15・16の2日間でまちぐるみの大きなイベント「みなみあおやま こどもアートワーク」を開催します。港区立青山小学校をメイン会場に、南青山2丁目に拠点や縁のある企業・施設・店舗が、ワークショップやレクチャー、音楽会、青山の自然や建築・史跡をめぐるプログラムを実施予定。CCは各所との調整に奔走中です。さらには園の保護者にもご協力いただき、保護者によるワークショップも開催予定です!

駒テラス西参道



「西参道から賑わいと文化交流を」をスローガンに、【SANDO FES】という年一回のお祭りを地域の方と毎年開催しています。

もともと、地域発祥の有志の方で行っていたイベントに、駒テラスも仲間に入れていただいた流れで、駒テラスおよびその周辺を会場に、地域の飲食店や、音楽ライブ、こどもの遊び場、ヨガ教室やサッカー体験など多世代の方が参加できる工夫をしています。なかでも、将棋のプロ棋士の方と地域の算数教室がコラボする企画や、棋士の対局を間近で見られる催しは、将棋文化を発信する駒テラスならではの特別感のあるイベントだと思っています。

*まちの研究所は、日本将棋連盟からの委託によりこれまでの子ども、保育・教育、まちづくりの領域での知見を活かしながら、本施設にてまちとの共創・にぎわいを生み出す企画・運営を担っています。



まちの保育園・こども園、まちの研究所では、今年もオンラインシンポジウム採用を行なっています。新卒・中途ともに対象で、2025年度内の入社をご検討の方にもご応募いただけます。ご検討の方も、



こえをきく こどもたちの学びの物語り	ひろ 場を拓く、素材を拓く ひろ 園庭テラスの可能性	まちの保育園 小竹向原 2・3・4・5歳児
まちの保育園 小竹向原が今年度力を入れていることのひとつ、『園庭をよりよい場に』。	どんな場にしたいか？ なにがでさうか？ 大人も子どもも対話を重ねながら、素材棚やテーブルをセットアップしています。	
素材や植物を増やしたり、縁側の製作なども企画中。 もともとあったテラスもさらに活用しようということで、	今回は、これらの場で日々を過ごす 子どもたちのさまざまな姿をご紹介します。	

地面の向こう側 ② 歳児クラス



テラスの魅力のひとつ、天井のように私たちを覆い、包みこんでくれる葉っぱたち。つやつやと揺れる葉をどう見つめていこうかと考え、大きな鏡をテラスの地面に置いてみました。

「かがみのなかに
おちちやいそう！」

積み木が外に飛び出し



いつもはお部屋の中で行なっている積み木遊びを、今日はテラスで深めてみました。
「ここですの?!」と驚く姿もありましたが、子どもたちはすぐに手を動かしはじめます。

② 歳児クラス



この環境に慣れてきた頃に、石やナカダイ*の素材を手渡しました。普段、組み合わせることのない石や自然素材が混ざること、これまで見たことのないような構築が生まれています。同じ「積み木遊び」であっても環境が変わることで、そのアイデンティティとの出会い直し、関係の再構築を、子どもたちは自然と行なっているようでした。

保育ではよく『アフォーダンス理論』という言葉が使われます。物体や環境が、それ本体がなにあるかだけでなく、それがどのような行動を誘発するかを示す情報を持っている、という考え方です。
レッジョ・エミリア・アブローチによる『環境は第三の教師』、子どもの発達や豊かさには環境が大きく関連している、という話にも関連する言葉です。

普段慣れ親しんだ素材でも、環境や大人の関わり方次第で変化が現れ、より豊かで飛躍的な子どもたちの姿が生まれます。そのときどきで最も適した環境を用意することは、私たち保育者の責任でもあるのだと改めて感じた時間でもありました。

*ナカダイ

群馬県にある廃棄物処理業の会社。誰かが不要と判断した“モノ”について、「使い方を創造し、捨て方をデザインする」ことを理念とされている。まちの保育園では10年以上、子どもたちの遊びの素材(マテリアル)として使わせていただいている。

場が織りなす表現たち ③ 歳児 ④ 歳児クラス



この日はテラスでの絵の具の時間。午前中の木漏れ日はとても美しく、光・音・風、さまざまな事象が重なり合った心地よい空間で、子どもたちの筆はぐんぐんと進みます。

1枚の紙にじっくりと描く子、たくさんの紙を使って描く子、さまざまなサイズや質感の紙に描く子、テーブルに映る影に気づく子、普段とは違う姿勢でイーゼルを使って描く子。誰一人として同じことをする子はおらず、それぞれの思うがまま、好きなように描いて

いきます。誰かが終わるのを待つ子もいれば、待ちくたびて本を読む子も。誰かの描く絵をただじっくり眺めている子もいました。どんな想いを馳せていたのでしょうか。

この日、この場所でき織りなすことができないであろう時間の中、それぞれの感情のもと、線や色があらわれていました。



「かげに てんてんかいたよ」

自然から受け取るもの ④ 歳児 ⑤ 歳児クラス



「まちのほいくえん」

小さな木の枝で文字をつくる子どもたち。枝が足りなくなると、自分たちで園庭に木の枝を探しに行きます。
どんどん増えていく木の枝に、「園庭にこんなにたくさん（木の枝が）落ちてるんだ!」と保育者は驚嘆。

一人の子はこう言います。
「そうだよ、しらないの?」



園庭には、いわゆる既存の玩具や遊具はほとんどありません。けれども、枝に葉っぱ、砂に石など、子どもたちは自ら素材を見つけ、遊びを広げることができます。

白い石を見つけると、それで線が描けることを知っているKさんは黒い紙にお絵描きを始め、Rさんは、大きさも色もさまざまな石を集めては積み重ねていました。



大人では見過ごしてしまうことも、子どもたちはよく感じ、よく知っています。きっと、落ちている木の枝たちは子どもたちに日々語りかけ、対話を繰り返しているのでしょう。

サーチとリサーチの世界。彼らは直線的な探索だけでなく、毎日の繰り返しの中で感覚的・立体的なものごとを捉えているのだと感じます。

こうして改めて場を切り拓くことで、素材をどう使い、そのアイデンティティをどう拓いていくか、場や素材・環境すべては、完成することなく作られ続け、変化し続けるということに再度気付かされた時間でした。

おわりに



園庭テラスの環境には、まだまだたくさんの可能性があります。レイチェル・カーソン著『センス・オブ・ワンダー』*の新訳をされた森田真生さんはこう語ります。

「未完成なものの魅力は、それが閉ざされていないことだ。自然を前にして躍動する子どもたちの心の広がりや、描写し尽くすことはだれにもできない」

まさにこのテラスという場は“未完成”であり、完成に向かってはいません。それはそこに、私たちの生きる時間が絶え間なく流れ続け、自然とともに、さまざまな素材とともに、拓かれた場であるからです。

この場での子どもたちの心の広がりを見つめ続け、変化とともに生き、木々や生き物の姿に倣うようにして、子どもたちとこの場の表情の変化に敏感でありたいものです。

文章：まちの保育園・こども園 アトリエリスタ 齊川美帆

*『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著

保育、幼児教育の文脈においてもたびたび参照される、自然の中で過ごす子どもの洞察力や感性の瑞々しさについて細やかに描写された名著。

参考文献：レイチェル・カーソン／訳：森田真生
『センス・オブ・ワンダー 訳とそのつづき』

今と未来を 考える ⑤ 保育・教育をめぐる 社会のあれこれ		もう一度、つなぎなおす ～一つひとつのいのちが大切にされる社会～		ま 【Mac-MAKITA】 ま〜〜〜また〜 この圖にもある2つの機器。昔は壊れやすかったマキタも、もうずいぶん丈夫になりましたね。また、マキタの電動インパクト。それはいつからかコミュニティコディネーターの必須の道具になっています。家具を直したり、つくったり。最近はそのうちことが好きな保育者や家族もやりやすくなった大仕事は、保育園環境づくりにかかせませんね。そのとき、いつもマキタは相棒です。		み 【みなみあおやまこどもアートワーク】 まちの保育園 南青山と、園が入居するボリア青山ビルディングが共催というかたちで、まちのイベントを開催することになりました。港区南青山地区の子どもと大人がアートや表現を通して交流したり、自分たちの表現を発信したりする場です。今年が初めての開催となりますが、町内会や近隣の企業、施設、そして港区も後援として協力くださり、地元の青山小学校も舞台の一つとなるなど、広がりのある	
		ま 【Mac-MAKITA】 ま〜〜〜また〜 【まの音のつくり方】 まのせーのーをつくりかた 代々木公園の園で、「まち」に興味を持ち、「まち」を研究していた子どもたちは、やがて、「まちの」音をつくることに興味を持ちました。その姿を知った保護者の方からの紹介で、地域のサウンドアーティストの方と、まちの「音」の探究の機会に恵まれました。まちの音をサンプリングしてきて、集めた音はサウンドアーティストの手によってパソコン上で編集され、可視化されていきます。その瞬間、子どもたちは目を見張りました。「えっ音にカタチがあるの？」。音の「波形」は子どもたちにとって大きな驚きと発見でした。しかし、その後に驚かされたのは私たちのほうでした。子どもたちは「音」を「音」でなく、「絵」で表現し始めたのです。絵の具で豊かな色彩と共に、針金やねじを使いコラージュで「波形」を描き出す子どもいました。		ま 【Mac-MAKITA】 ま〜〜〜また〜 【まの音のつくり方】 まのせーのーをつくりかた 代々木公園の園で、「まち」に興味を持ち、「まち」を研究していた子どもたちは、やがて、「まちの」音をつくることに興味を持ちました。その姿を知った保護者の方からの紹介で、地域のサウンドアーティストの方と、まちの「音」の探究の機会に恵まれました。まちの音をサンプリングしてきて、集めた音はサウンドアーティストの手によってパソコン上で編集され、可視化されていきます。その瞬間、子どもたちは目を見張りました。「えっ音にカタチがあるの？」。音の「波形」は子どもたちにとって大きな驚きと発見でした。しかし、その後に驚かされたのは私たちのほうでした。子どもたちは「音」を「音」でなく、「絵」で表現し始めたのです。絵の具で豊かな色彩と共に、針金やねじを使いコラージュで「波形」を描き出す子どもいました。		み 【みなみあおやまこどもアートワーク】 まちの保育園 南青山と、園が入居するボリア青山ビルディングが共催というかたちで、まちのイベントを開催することになりました。港区南青山地区の子どもと大人がアートや表現を通して交流したり、自分たちの表現を発信したりする場です。今年が初めての開催となりますが、町内会や近隣の企業、施設、そして港区も後援として協力くださり、地元の青山小学校も舞台の一つとなるなど、広がりのある	

※本内容は、2025年9月に胡桃堂喫茶店にて行われた、影山知明さんによる、まちのグループ職員へ向けたお話のなかから一部抜粋してお届けしております。



左：弊社代表松本、右：影山さん。和やかな雰囲気では進行していきました。

副業のつもりが天職に。国分寺にこだわる理由

僕は大学を出て最初にマッキンゼーという会社に入った後、投資ファンドの会社に移って、事業開発などを行っていました。そういうコンサルとかベンチャーキャピタルみたいな世界から、35歳で転職が訪れて、カフェ「クルミドコーヒー」を始めることになったんです。国分寺の実家が空き家になったから、集合住宅に建て替えるという話になって、「じゃあ2階から上はシェアハウスにして、1階は住む人も地域の人も使える”まちの縁側”みたいな場所になれば」と、始めたのが17年前のこと。

最初は「家業の一部」くらいの感覚で、本業はあくまで別にあるつもりでした。でもいざ始めると、カフェにまつわる仕事、カフェを通じたまちとの関わりがどんどん面白くなってきて「これこそが、人生をかけて取り組むべき天職だ!」と。そこからはもう、無我夢中でやってきました。

僕はいま、国分寺で三つの拠点を経営しています。ひとつは「クルミドコーヒー」、もうひとつはそのとなりの駅にある「胡桃堂喫茶店」、そして「ぶんじ寮」という”まちの寮”。それらを結ぶと、1辺2kmの逆三角形になっていて、身体的に実感をもてる小さな範囲です。ありがたいことに他の地域からカフェの出店やコンサルティングなどのご依頼をいただくこともあります。時間も体力も有限だと感じているので、実現したい世界のためにも国分寺に全力で向き合い、そのほかの仕事は最小限にとどめています。➤

あたらしい自治会による「予算ゼロのお祭り」

最近、自治会をつくりました。「ぶんじ寮じかい」といって、国分寺に住む人だけでなく全国から参加できるのですが、現在60名ほどが加入してくれています。この夏は「予算ゼロで祭りをつくれるか?」をテーマに、自治会初の祭りを開催しました。やぐらにかけける紅白幕は、みんなの家から赤と白のシャツを集めて繋げてつくる。祭りで振る舞う食べ物、地元農家から地域通貨を使って野菜を分けてもらう。最後は寄付もあったりして、そこまでいくとズルなんですけど(笑)、さまざまな工夫でほぼお金をかけずに実現することができました。そういったコミュニケーションを煩わしいと思う人もいるでしょう。でもやりとりを通じて関係性が生まれ、仲良くなっていくのを目の当たりにして、お金で解決するのは楽だけど、それでは育たないつながりがあると実感しました。また、いかに普段私たちがお金に頼りすぎているか、ということにも気づきました。

都市部ならではの、あたらしい共同体

田舎には田舎で人のつながりがありますが、まちに関わらずに暮らすのが難しいようなムードや、内輪だけのルール、何かあればすぐ近所中に知れ渡るような、そういう空気とともにあることが多いですね。だから多くの人は東京に出て、自由を感じる。しかしその自由というのは同時に孤立することでもあったんです。だからこそ、「お互いの自由は尊重しつつ、共生していく」共同体を目指したい。必要以上に干渉せず、ルールやしきたりで言動をコントロールしない。一度バラバラになった都市部だからこそ、そうした風通しのいいコミュニティをつくれる可能性があると思っています。

穏やかに世界をひっくり返すー関係性の社会へ

去年末に出版した著書『大きなシステムと小さなファンタジー』。この表紙に描かれているのは三角形。尖った一点が上を向いた三角形は「リザルトパラダイム」と呼ばれ、事業計画や利益といった成果を先に定義し、そこへ最短距離で突き進んでいく経営のやり方です。この方法論には僕らも恩恵を受けてきたと思いますが、行き過ぎると人間が成果のための手段や部品になってしまう。役に立つ・貢献できる人のみが価値があるとされてしまう、そんな危うさがあります。だから僕は、逆向きの三角形「プロセスパラダイム」(結果よりも過程を重視する価値観、社会の粹組み)にひっくり返したい。目的や意味を手放し、足下にあるものを大事に、一つひとつの緑や関係性を丁寧に育んでいくことで、気づけばたとりに着くべき成果にたどり着く。人間を利用価値や機能性で判断せず、存在として受け止めたい。そんな社会のつくり方、経営の仕方ができるのではないかと考えています。それは植物の育ち方に似ていて、僕らもクルミというシンボルを使っていますが、種の段階ではどんな形の木になるかは決まっていない。でも土や光や雨や昆虫との掛け合わせによって偶発性のなかで枝を伸ばし、自分だけの木をつくっていく。お店や人間の間隔も同じで、命の掛け合わせによってユニークな形が育っていきます。

利他性は循環する、という実感

目の前のお客さんに喜んでもらうために何ができるか。その意識は、まわりまわって自分たちに還ってきます。創業の2008年から現在に至るまで、売上は年平均9%くらい伸びてきました。この時期はリーマンショック、東日本大震災、コロナ禍など、予測できないことが幾度もありましたが「この店がなくてはいけない」と思ってもらえることを大事に、利他性を原動力として続けてきた結果、成長にもつながった実感があります。もちろん売り上げは、事業のある側面をはかる物差しではないのですが。➤

効率や成果を最優先する社会のなかで、私たちはいつの間にかこれらの言葉や、仕組みそのものに縛られてしまっているかもしれません。影山さんがテーマとして掲げられている「一つひとつのいのちが大切にされる社会」をどうすれば実現できるのか? という問いは、保育や子育て、まちづくりといった私たちが日々向き合っている実践領域とも深く

関係しています。東京・国分寺で三つの拠点を営みながら、ローカルでさまざまな挑戦と実感を重ねてきた影山さんが思い描く『あたらしい社会のかたち』『関係性の紡ぎ方』について、お話を伺いました。

お話 ● 影山 知明さん
クルミドコーヒー／胡桃堂喫茶店 店主

コロナ禍では先行きが見えないなか、スタッフへの給与を払い続けられるのかと不安になりました。そこで考えたのが、お給料の額を変えられなかったとしても、可処分所得を増やすために家賃を抑えること。家賃3万円で住める「ぶんじ寮」を始め、そこはまちの合同社員寮のようにもなりました。築50年の建物ですが、共用部の掃除や修繕、草取りなどの維持・管理は外注せずにみんなで協力すること、寮そのものをまちへと開いて活用してもらうことで家賃3万円を実現しています。

お金に頼らない未来の経済

今期はさらに売り上げの成長を実現できてはいますが、近年は人件費や社会保険料、水道光熱費、コーヒー豆の相場なども上がり続けています。だからこそ、これからの未来は「売上を伸ばさなくてもいい経営」の実現について考えています。常にお金に追われている状態は不自由です。ここから、いかに自由に使えるか。

「お金への依存度(A)」と「社会関係資本=人々が持つ社会的なつながり(B)」は逆相関の関係であると考えます。Bが高まれば、Aは減らすことができますし、逆もまたそうだと思っています。最近、国分寺は「カフェのまち」としても知られるくらいお店が増えていて、たくさん出るコーヒーかすを地域のみんなで集めて堆肥にしたり、それを野菜の栽培に有効活用する取り組みが始まっています。私たちがイベントを開催するときには、地域の人手佐ってもらったおれを地域通貨「ぶんじ」でお返しするなど、少しずつ、お金を介さず必要なものを調達できる関係性が育ってきています。

また、ぶんじ寮には「パチャル倉庫」という仕組みがあり、クラウド上で各々が人に貸し出してもよい物を登録しておき、必要なタイミングで借りられます。みんなでシェアしあえば、お店を使わなくても暮らしが回る。こうしたことは個人単位だけでなく、お店の経営をしていく上でも、そういった工夫を重ねることで、お金から少しずつ自由になれると思っています。➤

GIVEからはじまる、あたらしい社会のかたち

だから僕は、あたらしい金融、みんながGIVEの気持ちで参加できる資本市場ができないか?と考えています。8年前、胡桃堂喫茶店の開店資金の出資を募ったとき、一口3万円で、3つのコースを用意しました。Aコースは、事業の成果に応じて出資相当分がそれ以上のリターンを。Bは、3割を寄付していただく。そしてCは、お金としては一切返さない。すると、出資してくれた333名のうち3分の1、100名以上がBとCを選んてくれたんです。これは、自分のお金を増やすためというより、応援したいという気持ちで集まった、お金の新しい流れです。

一連の活動を通じて、最近ではまちの行政、教育、医療、福祉にも少しずつ関わりが生まれるようになってきました。まちは、全体性を持った有機体。国分寺というまちを舞台に、分野を超えて、持続性を持ったあたらしい社会のトータルデザインをしていけたらという想いでこれからも活動していきます。



影山 知明 (かげやま・ともあき)
クルミドコーヒー／胡桃堂喫茶店 店主

1973年東京国分寺生まれ。東京大学法学部卒業後、マッキンゼー&カンパニーを経て、ベンチャーキャピタルの創業に参画。その後、株式会社フェスティナレンテとして独立。2008年、国分寺の生家の地に多世代型シェアハウスのマージョ国分寺を建設し、その1階に「クルミドコーヒー」を、2017年には国分寺に「胡桃堂喫茶店」をオープン。出版業、書店業、哲学カフェ、地域通貨、まちの寮などにも取り組む。著書に「ゆっくり、いそげ 〜カフェからはじめる人を手段化しない経済育〜」(大和書房)、「続・ゆっくり、いそげ 〜植物が育つように、いのちの形をした経済・社会をつくる〜」(査読版、クルミド出版)。

まちのねのね

まちのチームの読む辞典

【みなみあおやまこどもアートワーク】

まちの保育園 南青山と、園が入居するボリア青山ビルディングが共催というかたちで、まちのイベントを開催することになりました。港区南青山地区の子どもと大人がアートや表現を通して交流したり、自分たちの表現を発信したりする場です。今年が初めての開催となりますが、町内会や近隣の企業、施設、そして港区も後援として協力くださり、地元の青山小学校も舞台の一つとなるなど、広がりのある

【むしクラス】

この春、世田谷区池尻で開校したクリエイティブラーニングスクール「レンズ」のクラス。レンズでは、ラーニングパートナーと呼ばれる専門家たちと共に子どもたちの好きと問いを深めていきます。先日、「むし」クラスでは東京農大の野生動物研究会のチームがマイマイカブリを持ってきた。カッターミを捕食するため、マイマイカブリという名前。殻に顔を入れて捕食するために持つ独特のフォルムを子どもたちは興味津々に観察します。直近では、むしを捕まえた後観察をするところから、「むし」の居心地の良さ」を考えてバイオエラスト(鳥の巣コンポストを作ったり、むしの好きな食べ物やを考えて園芸の専門家と植物を育ててはじめていく。むし」の多様な視点が広がっているのを感じます。

【もぐら】

意外と東京にもいるんですね、もぐら。その姿がなかなか見えないからこそ、子どもたちにとっては、その溢れる想像力に応える対象になっている、公園内で「もぐら塚」が見つかったところから、もぐらの物語は始まりました。また、吉祥寺の園でも近くの井の頭公園内にある水生生物園でモグラの穴を見つけたところから、探究が展開していききました。「詩人の仕事は起こったことを言うのではなく、起こりうること」を語ることに。子どもたちは、いつも詩人のように、「そうあるかもしれない」を暮らしている。世界」を語ってくれています。

【森へ行くー】 もりへーい。

六本木の園が開園来、子どもと家族と保育者として、ご縁があった清里の森へ出かけています。大きな自然での実体験は、日常の暮らしに戻ったあとも、子どもたちの意外と東京にもいるんですね、もぐら。その姿がなかなか見えないからこそ、子どもたちにとっては、その溢れる想像力に応える対象になっている、公園内で「もぐら塚」が見つかったところから、もぐらの物語は始まりました。また、吉祥寺の園でも近くの井の頭公園内にある水生生物園でモグラの穴を見つけたところから、探究が展開していききました。「詩人の仕事は起こったことを言うのではなく、起こりうること」を語ることに。子どもたちは、いつも詩人のように、「そうあるかもしれない」を暮らしている。世界」を語ってくれています。

【野菜の収穫】 やさいのいしゅうかく

どの園でも「野菜の収穫」は子どもの物語や職員の関心、食育の文脈などから生まれていきます。今回は六本木園を紹介しました。意外かもしれませんが、六本木にも麻布台ヒルズ内に自然や菜園があり、屋上のチガヤは近くの神社の「茅の輪」に使われることも。都市にいなが自然と文化が結びつく光景が素敵です。先日は子どもたちが「うも」を収穫させていただきました。都市では景観として緑があっても、実体験として関わる自然は少ないので、全身で泥だらけになりながら自然の恵みを楽しませていただきました。自然の中では大人もリラックスでき、地域との交流も生まれ

【ゆつくり親になる】 ゆっくりおやとになる

子育て支援施設「おしよや」で開催している生後4ヶ月までの家庭を対象とした全4回のプログラム。私たちの方でも色々と考えたり、利用者の声を受けながら、おしよやでは子どもと子育て家庭と地域の多様な場を営んでいます。「このような場があると嬉しい」「このことをもっと知りたい!」などあればお気軽にご連絡いただければと思います。おしよやの様子や写真、動画はインスタグラムやホームページから確認いただけます。また、併設のカフェ食堂である「おの食卓」もいつでもお気軽にお越しいただけるので、親子で一息つきにいらしてくだい。私はブルーベリーの入った豆腐スムージーが好きです。

【夕飯に、どうぞ】 ゆはんにとどうぞ

続けておの食卓ですが、おのの食卓では夕方16時〜17時ビックアップのおかずセットを用意しています。予約制で、ランチで提供している人気メニューを中心に、お子さんもお食やすい献立にしています。夕飯どうぞしよう、いつも考えますよね。うちの職員も結構利用させていただいています。

【ゆつくり親になる】 ゆっくりおやとになる

子育て支援施設「おしよや」で開催している生後4ヶ月までの家庭を対象とした全4回のプログラム。私たちの方でも色々と考えたり、利用者の声を受けながら、おしよやでは子どもと子育て家庭と地域の多様な場を営んでいます。「このような場があると嬉しい」「このことをもっと知りたい!」などあればお気軽にご連絡いただければと思います。おしよやの様子や写真、動画はインスタグラムやホームページから確認いただけます。また、併設のカフェ食堂である「おの食卓」もいつでもお気軽にお越しいただけるので、親子で一息つきにいらしてくだい。私はブルーベリーの入った豆腐スムージーが好きです。

【ゆつくり親になる】 ゆっくりおやとになる

子育て支援施設「おしよや」で開催している生後4ヶ月までの家庭を対象とした全4回のプログラム。私たちの方でも色々と考えたり、利用者の声を受けながら、おしよやでは子どもと子育て家庭と地域の多様な場を営んでいます。「このような場があると嬉しい」「このことをもっと知りたい!」などあればお気軽にご連絡いただければと思います。おしよやの様子や写真、動画はインスタグラムやホームページから確認いただけます。また、併設のカフェ食堂である「おの食卓」もいつでもお気軽にお越しいただけるので、親子で一息つきにいらしてくだい。私はブルーベリーの入った豆腐スムージーが好きです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

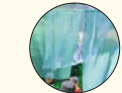
あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。

【みるもの】

あるとき、子どもたちと沖縄の海に行きました。快晴の空、きらきらと輝く珊瑚礁の海を目の前に、子どもはこう言いました。「わあ、そらがきれい。私たち大人は、これまで目にしてきた海と比較して、心が奪われるほど美しい沖縄の海に目が行きがちですが、子どもがみているように「空」を見てみたら、その「空」は、ハッとするほど美しかった。子どもがみている世界を、そばでみさせてもらえる、子どもとの時間の豊かさを感じたエピソードです。



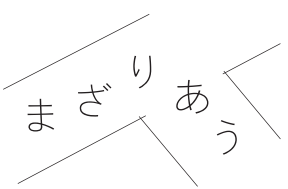
松本さんに聞いてみたいことや募集中

読者の方(職員の方も大歓迎)からの質問を募集しています。些細なことでも大丈夫です。どしどしお寄せください!



つなぐ

共創プロジェクト



まちの研究所の

家族みんなで過ごせる場をめざして



周辺は『遊びに行く場所』としてのイメージが強いエリアですが、子どもの教育機関も多く、近隣に住まう子育て世帯の方も多くいらっしゃいます。そんなみなさんが安心して過ごせるようなコミュニティ形成、子育て支援、日常的に訪れることができる子どもフレンドリーな場をめざして、緑溢れるこの環境のポテンシャルを活かしながら、さまざまな活動を企画しています。この取り組みを通じて、麻布台ヒルズやその周辺地域でも、子ども・子育て家庭を中心とした地域のつながりや賑わいが生まれることを願っています。／

VOL.5

FAMILY GREEN アトリエ

イベントタイトルに込めた想い

「FAMILY」＝ファミリーに拘ったのは、近年『こどものための場』は増えているように感じますが、ここで過ごす時間は「家族の時間」にしてほしい、という思いがありました。たとえば染め物を行った回では、工程のなかで大人も参加できる場面を意図的に作ったり、自然発生的に、「高いところに干して」とお子さんが保護者の方に促して協力する姿もありました。他にも、セッティングされている素材や企画についてスタッフに尋ねてくださったり、フォトラリーの企画で使っているカメラや、顕微鏡などの機材にも関心を寄せていただいたり、好奇心をもって一緒に楽しんでいる大人の方もよくお見かけしています。



FAMILY GREEN アトリエ

「GREEN」は言わずもがな、都会ならではの自然を楽しめるこの環境を表す単語ですが、麻布台ヒルズのコンセプトである【緑に包まれ、人と人をつなぐ「広場」のような街】【グリーン＆ウェルネス】という考え方に由来しています。そして「アトリエ」という位置付け。遊び場やプレイグラウンドと謳えばわかりやすさはあるのですが、あえて選ばなかったのは、子どものための「アトリエ」という概念に触れてもらえたら、知っていただけたらという思いがあります。一見、敷居が高く感じられるかもしれませんが、子どもが主体であり、これほど自由で、たくさんの気付きにあふれた創造の場であるということを感じただけだと考えています。

環境が引き出す、あたらしい出会い

「環境も、素材も、はじめての出会いがたくさんあった」「想像以上に、集中して長く楽しんでいった」そんな声が保護者の方からよく聞かれます。いわゆる既製品の遊具や玩具があるわけでは

ないので、はじめは珍しそうに見渡して、躊躇している様子のお子さんでも、少しすれば順応していきます。再入場もできるので、何度も出入りしながら、一日じゅうここで過ごしているご家族もお見かけします。



また親子での探究や創造のきっかけとなるような「問い」を会場で配布しているパンフレットに入れたり、各コンテンツにも設置したり、その場にいるスタッフからも遊びのパートナーとして声がけに配慮して、この企画を楽しんでもらえるような工夫をしています。／

この色はどんな味や匂いがしそう？

落ち葉の上を歩くとどんな音がする？どんな気分？

日本の伝統色、暦や季節感を大切に



FAMILY GREEN アトリエの世界観のコンセプトは「こよみのわ(暦の和)」。毎回、その時期に合わせた日本の伝統色と、そのときどきの旬をテーマに環境やワークショップをセッティングしています。国際色豊かな地域でもあるため、あえて「和」の文化に重きを置き、自分たちの日常の暮らしを通して「東京の二十四節気」を知り直していくきっかけにもなれどと考えています。毎

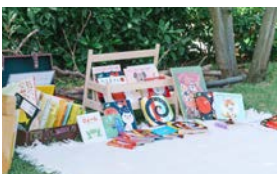
月々ささやかに季節を祝福する。いつもより少し、時間がゆっくり流れる。そんなふうに過ごせる空間になればと思っています。

交流、協働、めぐる、生まれる

未就学児のご家庭を中心に、最近では一日に400名以上の方にご来場いただき、インスタグラムの告知からだけでなく、通りがかりに立ち寄ってくださる方も多くいらっしゃいます。一期一会、不特定多数の方にお越しいただく環境ではありますが、そんな中でも、自然とお子さん同士の協働が生まれたり、素材を交換し合うような場面が見られます。私たちスタッフも、この場で過ごす子どもたちの姿をみて、あたらしい問いや発見が生まれ、大きなインスピレーションとなり、次回以降の企画・活動に繋げていくことができます。



また、毎回恒例の絵本交換会や、フォトラリー(カメラで3枚撮影いただき、1枚を場に残していただく)。前回から今回への間接的な交流が生まれ、ストーリーが繋がってゆきます。だれかの温度や表現が残されていることで、そこから会話や新たな創造が生まれることも。



会場となっている麻布台ヒルズの果樹園、中央広場はとても豊かな場所。今後は同施設内に入る店舗などとも連携をはかり、この環境ならではのイベントとして育てていけたらと考えています。また、11月は港区立「我善坊横川省三記念公園」に会場を移して開催予定です。公園という、より日常の中にある環境の中で、都心ならではの自然の楽しみ方も提案していけたらと思っています。これまでの園や施設での実践の積み重ねも活かしながら、これからも、子どもたちにとっての創造的な学びの場づくりを大切にしていきたいです。

次回開催 *住所は下頁参照
11月22日(土) 10:00~16:00
会場:我善坊横川省三記念公園



INFORMATION

EVENT

みなみあおやま こどもアートウォーク 初開催

まちの保育園 南青山では、保育園が入居するPOLA青山ビルのオーナー・株式会社ピーオーリアルエステートさんと共催で、アートウォークイベントを開催します。二日間で、20を超える企業・団体の皆様とともに、ワークショップや展示等を行います。詳しくは特設webサイトをご覧ください。

11月15日(土) 11月16日(日)
10:00~16:00
東京・南青山2丁目近辺



現役職員に聞く、 保育園ではたらく実際

一子どもの声から始まる保育ー

現役職員が“保育のリアル”を伝えるセミナーを開催します。日々の働き方や仕事の楽しさ・悩み、研修や(ちょっと聞きづらい)給与のこと、レッジョ・エミリア・アブローチの学びや保育への活かし方まで幅広く紹介。子どもの声から始まる保育の実践を共有し、保育を目指す方や学びを深めたい方とともに考える時間です。

12月17日(水)
19:00~21:00

まちの保育園 小竹向原
東京都練馬区小竹町2丁目40-5
*現地・オンライン同時開催



FAMILY GREEN アトリエ 麻布台ヒルズ周辺で毎月開催中



まちの研究所では、森ビル株式会社さんと共催で、レッジョ・エミリア・アブローチからインスパイアされた屋外アトリエイベントを、月に一度開催しています。11月は麻布台ヒルズ近くに新しくオープンした「港区立我善坊横川省三記念公園」で行います。ぜひ遊びに来てください！

11月22日(土)
10:00~16:00 *参加無料・事前申込不要
(雨天の場合は翌23日に延期)

港区立我善坊横川省三記念公園
東京都港区麻布台1丁目1-3



MEDIA

伊藤穰一さん(千葉工業大学学長)のポッドキャスト、第3シーズン #84 #85 回にまちの保育園・こども園/まちの研究所代表の松本が出演させていただきました。伊藤さんと共に創設したニューロダイバーシティの学校、NSITについてお話をしています。各種ポッドキャストプラットフォームで配信中です。



駒テラスの文化祭 「KOMAFES」開催

2023年6月、参宮橋に誕生した施設「駒テラス西参道」。将棋を切り口に文化と日常を繋ぎ、人々が自然に交流し、発言が生まれる渋谷の文化拠点です。今秋はまちの人々と創りあげる文化祭、「KOMA FES」を三日間に渡って開催！

11月21日(金)~11月23日(日)
10:00~18:00
駒テラス西参道
東京都渋谷区代々木4丁目16-1



コミュニティコーディネーター講座 今年度も開催決定

毎年、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(CEDEP)さんと共催している「コミュニティコーディネーター講座」。今年度は2026年3/27(金)に開催予定です。今号の特集でもご紹介したCCたちも参加します。詳細は、まちの保育園・こども園ホームページ、および まちの研究所ホームページにて追ってお知らせいたします。

採用説明会を 毎月開催しています

まちの保育園・こども園では、毎月採用説明会を実施しています。互いに学び合い、対話しながら、まちの保育園・こども園の文化・保育を共につくってくださる方との出会いを楽しみにしています。ご関心のある方は、日程をご確認の上、フォームからお申し込みください。

次回開催: 11月26日(水)
18:30~20:00
こしゅや *現地開催のみ
東京都渋谷区宇田川町5-6
渋谷区子育てネウボラ 2-3階

12月 12月23日(火)
19時~20時30分
*オンライン開催のみ



まちの保育園・こども園



HP



Instagram

まちの研究所



HP



note

あとがき

「まちのね」第五号、最後までお読みいただきありがとうございます。第一号刊行が2024年11月でしたので、今号で丸一年。これからも、ふと立ち止まって読み返したくなるような誌面づくりを目指してまいります。ついでの間まで暑いね〜、と言っていた気がするのに、気づけばあつという間にもう年末。みなさんどうか無理なさらず、少しでも自分を労う時間をつくりたいですね。今回は本誌の制作にご協力くださったみなさまにも、大きな感謝を。だれもが安心して新しい年を迎えられることを願って。来年もどうぞよろしくおねがいします。

本誌に関するお問い合わせ: press@machihoiku.jp